



花みずき



第18期 第5号
 発行者代表 松本奈美
 編集者 中川和哉

主 題 共にいてくださる主を信じて

信仰と希望と愛

主題聖句 「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。
 その中で最も大いなるものは、愛である。」 コリントの信徒への手紙一

『宗教改革500年を覚えて

…「Allein」のこと』

鈴木英夫牧師 (西条教会)



4月より西条教会および幼稚園の働きに就いた。新卒教師として福山教会に赴任してから22年ぶりの西教区同地区での奉仕となる。定年を間近に控え、これまで神様からいただいた豊かな恵みをお返りする機会が与えられたと感謝している。

いよいよ宗教改革500年の秋を迎えた。ルターによる宗教改革は隠されていた「神の義」が、聖書を通して、再び信仰者の元に取り戻される出来事であったと言えよう。ルターと同時代、ルターに僅かに先んじて一人の会衆讃美歌作者が登場した。ニコラウス・デチウス(Nikolaus Decius c.1485-1541)である。彼は1485年頃に生まれ、ライプツィヒとヴィッテンベルクで学び、牧師及び讃美歌作者としてブラウンシュバイクはじめプロイセン各地で活躍した。1522年、「ミサ通常文」のグロリア・サンクトゥス・アニュスデイをドイツ語に翻訳し、それにふさわしい曲を付したことが彼の最大の貢献となった。ルターが同作業を行うのは4年後の1526年以降である。デチウスの作品が教会讃美歌の礼拝式讃歌231番(グロリア: Allein Gott in der Höh' いとたかき神に)、234番(アニュスデイ)に収録されている。231番の歌詞がルカ福音書2:14に由来していることは言うまでもない。デチウスの訳はミサ通常文「グロリア」のほぼ忠実なドイツ語訳で、曲はその訳詞に有節歌曲形式の旋律を付したものである。

デチウスのグロリア訳で注目すべきは、最初に置かれた「Allein(のみ)」である。ラテン語原文には存在しない。ここには、当時のローマ教会が支持していた「行為義認」に対して、徹底的に神の恵み「のみ」による「信仰による救い(信仰義認)」という宗教改革的主張が鮮明になされている。

「高きにいます神に栄光あれ」という天使の讃美を「高きにいます神に『のみ』栄光あれ」と福音的に捉えている点はルーテル教会として重要である。

ルターもドイツ語訳聖書において、この「Allein(のみ)」を有効に用いた(ローマ書3:28など)ことで、ローマ教会から強烈な批判を受けたことは有名である。ルターは面白い。

鈴木英夫牧師 プロフィール

1952年 埼玉県出身

社会人を経て献身・按手

福山教会、室園教会、松本・長野教会、
 挙母教会を歴任。

2017- 西条教会

おつれあいと二人暮らし。

『この場所から伝える』

加納寛之牧師

(岡山・高松・松江教会)



二度目の「ただいま」の思いをもって西教区で働きを担うことができることは喜びであり、いただいた恵みをお返しすること、使命として与えられたものであると感じています。

高校一年の夏、初めて広島を訪れたことが牧師として歩む決心の大きな一歩になりました。井伏鱒二の「黒い雨」を読み、ヒロシマに立つことで気づき、知ることがあると考えていた時、教会で平和セミナーの申込書を見つけ、その願いは実現しました。西教区教育部が主催していた「平和と核兵器廃絶を求める委員会」(通称PND委員会)の働き、広島教会女性会が中心にご奉仕くださった働きでした。まだ古い広島教会を会場にし、宿泊は谷の百合幼稚園でしたので、十年を経てその場で働きをさせていただくことになるとは思いませんでした。一人で広島を回っただけでは気づくことのできないヒロシマの現実を目を向ける時を過ごした機会でした。特に在日大韓基督教会広島教会との交わり、その当時、韓国人被爆者のための追悼碑が平和記念公園の外に建設されていることに衝撃を受けました。被害者という一面でしか見ることでできていなかった自分自身に気づかされた時であり、被害者であり、加害者であるという立場に立つことで見えてくるものがあり、一つの、一方の見方だけで歩むのではないことを心に留める機会となりました。

十年後、広島教会の副牧師として「ヒロシマ」で過ごし、出会いを与えられる中で感じたことは「日々の中にある痛み」でありました。見せたくない痛み、気づいて欲しくない、隠している痛みもまたヒロシマにはあるのです。そこで生活をする人にとっては思い出したくないものでありつつ、平和を求める思いを発信するのが広島なのでしょう。平和を声高らかに語るだけではなく、静かに寄り添い祈る中で平和へと近づく道を教えてもらったのが二年間の時でした。また十年間の中で韓国人被爆者のための追悼碑が平和記念公園の中に移設されたことはそれは多くの方の祈りと働きが結実した証しでもありました。

今、岡山という広島に近い場所からヒロシマを感じ、伝える働きを担うことができることに身の引き締まる思いでいます。同時に気負いすぎずに離れている場所だからこそできる働きをしていくことが今、神さまから与えられた使命であると感じています。いただいた恵みを、時間の中で薄れ行く記憶と思いを大切なものとして受け継ぎ、引き継ぐ働きです。熱い思いはなお変わりませんが、今、ここで出来ることを、今日伝えられることをしていきたいと願っています。

皆さんも何らかの熱い思い、祈りをお持ちでしょう。家族のための祈り、隣人への祈り、社会や平和への祈り、などなど。一人一人違う熱い祈り、思いを大切にしながら、その場でできる働きを主と共に担いましょう。それを実現する者は幸いなる者と主は言われます。

加納寛之牧師 プロフィール

1976年 静岡県藤枝市出身

2003-2005 広島(副牧師)、

呉・松江・松山教会

2005-2017 帯広・池田・釧路教会

2017- 岡山・松江・高松教会

専門は「小児陪餐」を中心とした

聖餐と信仰教育

おつれあいと娘と息子の4人家族

宗教改革 500 年記念 ルーテル教会 合同聖餐礼拝 ～参加者の声～

合同聖餐礼拝に思う

カトリックとプロテスタントの秋の合同礼拝に先立って、関西の 3 つのルーテル教会が共に礼拝をもつ企画を知り、嬉しく待っておりました。50 年余り前、日本各地のルーテル教会が合同をした時期がありました。その折、関西でも、準備を共にしていた教会が、何故か直前にキャンセルをされ、少女時代にそこで信仰を養われた私には寂しかったことを記憶しています。教団には其々に個性があるように感じます。が、江口先生が繰り返し語られた、ルターの「信仰は一方的に神より与えられるもの、人はそれを感謝して受け取るのみ」とのメッセージを共有し、確認しつつ、共に歩んでゆきたいと願います。

先年逝かれたある牧師が「一つにならんことを」という祈りを込めた言葉を残して居られます。その思いと言葉が、私の中で大きく響いていた時間でした。今、このような「時」をあたえられましたことを、心より感謝致します。

(大阪教会 松原悦子)

日時：2017 年

7 月 17 日 (月・祝)

場所：日本福音ルーテル大阪教会

「大会プログラム」

・ルターセミナー

講演：「ルターが今日の日本に生きていたら」
～神のすばらしき創造の世界との共生～

講師：江口再起先生

・アピールタイム

・オルガン演奏 J.S. バッハ 作品

演奏：小島尚美姉

・ルーテル教会合同聖餐礼拝

来たらせ給え、主よ御国を

「～あなた、見かけない人やなあ、どっから来はった？
ルーテルさんやろ～ッ？」と、電動車いすで、うろうろ

している私は優しい声かけを頂いた。広島から、るうてるホームに入居して、間の無い頃よりご近所の散歩中の人から、話しかけられたり、会話を交わすことがしばしばある。

今年この「るうてるホーム」の玄関に吊り下げられているマルチン・ルターのバナーを見ながら、「もっとルターさんらしく生きたいなあ」、と思っているこの頃です。

先日、大阪教会での宗教改革 500 年ルーテル合同記念礼拝に出席のため、介護タクシーを雇って独りで出かけた。講演を聞いて、本当に良かった！私の今の体力ではギリギリの行動でしたが。

81 歳で 75 年間も脊髄性小児麻痺の私ですが、マルチン・ルターが今生きていたら～？と思うこともあり、講演を聞いて、内容的に命中、と言った感。そして思った、見方によっては或は私も、小さい者ながら、その様に生きて来たかも、と。若き日、聖書をモットモット知りたいと、神戸や東京で学び、更には福祉の心を、と願い、未だ福祉制度も無い半世紀以上も前のことですが、民間の福祉施設立ち上げに参加、地域福祉に関わってきました。重度の身体に障害を持つ友と一緒に生活し、相談員として、いろんなことにぶつかりつつ、施設職員として長い間、働いてきた。

そして今、私はルーサラン（生粋のルーテル教会の信者）と言う誇りを持って、此処で生きて居ります。神戸より疎開をして以来住んだ大好きな広島土地を離れ、ここ大阪へ来て、ルーテル教会の老人福祉施設に入居して生活することを決断したのです。今、老い、絶え間ない痛み、不自由さ、自らの罪に悶え、主のあわれみ、赦しなくしてはとても生きられない日々を送っています。

私が未来に果して、どんな樹が植えられるかは判りませんが、「どうぞ御心が地になるように」と祈り、希望をもって生きられたらいいなあ、と思っています。

(大阪教会 岡愛子)

*詳細の報告はるうてる 9 月号に永吉牧師が書いてくださっています。

西教区 女性会紹介

大阪教会 女性会

大阪教会は 2001 年に新しい会堂が与えられて 16 年になる。交通の便もよくバリアフリーの教会は様々な集会の会場になることが多い。

今年は宗教改革 500 年、大阪教会宣教 100 年と節目の年に当たりその関係の礼拝や集会が数多く開かれた。花みずきの集い・いつくしみの研修会などの会場になることもあり、いろいろな集会に参加できることは大きな恵です。

女性会の例会は第 3 日曜日礼拝後、連盟のしおりを中心に大柴牧師による聖書研究が行われる。又最終水曜日午後 2 時より忍ヶ丘集会（るうてるホーム）が行われる。ここでは大阪教会員のみでなく、他教会、他教派、男女を問わずどなたでもどうぞということで谷町からの数名も含めて 14, 5 名の参加がある。人生の先輩、信仰の先輩方の話されることに教えられることが多い。

第 1 日曜日には和食の日（和食だけではない）材料を持ち寄り昼食準備、皆に楽しんでいただいている。

毎年 6 月第 1 日曜日に女性会主催の親睦バザーが開催される。規模は大きくないものの子供から青年、壮年、共に親睦の時を楽しんでいる。

その他イースター、クリスマス礼拝でのマラナタ讃美、結婚式の手伝い等“祈りあい、支えあい、支えられる”の大阪教会女性会の主題を念頭に活動しています。（大野裕子）



大阪教会



忍ヶ丘集会所（るうてるホーム）

神戸東教会 女性会

神戸東教会はとても小さな群れですが、神さまに守られて歩ませていただいています。

女性会のメンバーもかかわっている取り組みの一つに、「なんでなんで教室」があります。地域の子供たちが土曜日の午後、教会に集ってくれています。さまざまな不安や悩みをいっている思春期まっただなかの中高生たちです。教会がそのような子どもたちにとって、心からの安らぎの場となるようにと願っています。自習する子、絵を描いたりピアノを弾く子もいます。心を合わせてお祈りのひとときももちます。神さまが子どもたちと共にいてくださり、ひとりひとりの成長を目のあたりにさせていただくことは有難いことです。最近、子どもたちの親ごさんの中に、日曜日の礼拝にご出席くださる方々もふえてきました。一人一人の子どもたちとそこご家庭を、主なる神さまがお守りくださるようにと祈りつつ、毎週土曜日、楽しいひとときが与えられて感謝しています。（乾 和雄）



召天者記念礼拝にて

厚狭教会 女性会

かつては、夜でも列車が駅に着くと、「アサー、アサー」と駅員が連呼。本州の最先端、下関市の少し手前の山陽小野田市。その厚狭駅から徒歩で5～6分にある小さな教会です。

教会員は、男女合わせて十数名。いつもの礼拝出席者は、小学生・中学生も入れて十二、三名。礼拝は主管牧師(下関教会・竹田牧師)と協力牧師(宇部教会・藤井牧師)の二人の牧師先生により守られています。少人数ですが、それぞれが、神様からいただいた賜物を活かして、補い合って伝道に励んでいるところです。日常的に、“吉本興業”並みの「笑い」が飛び交うところが特長です。

今年の二月から四月にかけて、牧師先生方・地域の方々・教会員が力を合わせて、教会の庭に「ピザ窯」を設置しました。イースター礼拝後、庭にて、竹田牧師からピザ窯の聖別をしていただき、この日から正式に稼働しました。二か月に一回の割合で、「ピザの会」をもち、近隣の人々との交流のため、ピザを焼いています。3回目は10月7日(土)に開催しました。

クリスマスコンサートは、創立50周年を契機に、毎年開催しています。教会員で構成される「希望の木合唱団」も出演し、前座を務めています。

特に力を入れているのは、子どもたちのキャンプ(“希望の木キャンプ”と命名)です。継続は力なり！当初は年1回でしたが、近年は年4回行っています。神の助けと導きにより、20年以上続けています。

特に夏の「きららキャンプ」は、当市にある「竜王山公園オートキャンプ場」にて、テントで一泊する本格的なキャンプです。(3月、6月、11月のキャンプは、厚狭教会に宿泊)

今回は、5～6歳の幼児4名と、小学生・中学生5名、保護者、青年、教会員、合わせて二十数名で実施しました。夏の暑い時期で、大人は、バテ気味でした。しかし、閉会礼拝時に、小さい子どもたちが、瞳を輝かせて紙芝居を見たり、歌っている姿などを見るにつけ、子どもたちの魂に、神様のことがしっかり入っていると思うのです。大人が、「暑い！」と根を上げている場合ではないと、神様に「貴方のみ旨に従います」と祈るのみです。



TNGキャンプ 報告

第19回ルーテル全国こどもキャンプ

8月8日～10日 @ルーテル学院大学

テーマ:「君に届け、神さまの愛! ～ルターからの贈り物～」

田邊 陽 (修学院教会)

僕は全国子供キャンプでいろいろなことを学びました。それはルターさんについて、と、みんなちがってみんないいです。まずはルターさんについてです。くわしいことはかいてないけど僕の考えをかきました。

ルターさんは今から500年前こういうことがありました。このおふだを買うことによってあなたはつみがゆるされてやがて天国に行ける。という人間がかってにつくったルールでお金をもうけていました。それをきいたルターは「それはちがうぞ」と思った。そのことを言うとみんなにはんたいされた。でもぼくの考えはルターさんが正しいと思った。理由はしんじるだけで天国へ行けて神さまはどれだけつみをおかしてもみんなを愛してくれるからだ。よく考えてみるとルターさんが500年前にいなかったらこの世はかわっていたことがわかった。次はみんなちがってみんないいです。みんなはすべてがいつしよとはかぎらない。たとえおなじであっても、せいかくとこせいはそれぞれちがう。これがおもしろい所です。友だちは、ざいさんでもあり、えいえんの友だちでもある。今回のキャンプでいろいろなことを学びました。

北川桃子 (天王寺教会)

今年も小学5・6年生を対象とした全国ルーテルこどもキャンプが三鷹で行われ、わたしはリーダーとして3年ぶりに参加しました。宗教改革500年というルーテル教会スペシャルイヤーに絡めて今年のテーマは「君に届け、神さまの愛！～ルターからの贈り物」でした。

最初に驚いたのはルターについて知っている子どもがたくさんいたことです。わたし自身もルーテルで育ちましたが、ルターのことを知ったのはきっと中学の歴史の授業です。ルター＝ルーテルと繋がったのはもう少し後で、功績を知ったのはここ数年です。各教会でキャンプに向けて準備して来たことが感じられて嬉しかったです。

後半のプログラムでは子どもたちにルターからの贈り物は何かを尋ねる場面がありました。聖書や賛美歌等このキャンプを通じて学んだことが出るなか、「こどもキャンプ」や「ここでできたお友達」という声が飛んだことにも驚きました。確かにこのキャンプもここでの出会いも全てルターからの贈り物だなと子どもたちから教えてもらいました。

最後のプログラムでは6年生の卒業式が行われます。リーダーとしてたった3日間しか見ていないのになぜかとても嬉しくて。リーダーは自分のグループの子が呼ばれるとなんとかその姿を写真に収めようと必死になります。子どもたちも卒業証書と一緒に渡される春キャン切符をもらってますます嬉しそうでした。「来年は春キャンで会おうね」と再会を約束し、一生付き合っていける仲間を見つけているところを見てまたこっちも嬉しくなりました。この先中高生・青年と共に成長していく姿、それをいつまでも見守りたいと思いました。そしてわたしもこうして見守ってくれてた人たちがたくさんいたこと、未だなお見守り続けてくれていることに感謝し、わたしが見守る世代ができたことに喜びを感じました。

子どもたちを通してルターのことはもちろん、それ以外のこともたくさん吸収できた3日間でした。

第5回バイブルキャンプ

8月14日～18日 @ルーテル学院大学

テーマ:「『キリスト者の自由』に見る奉仕」

- 「『キリスト者の自由』を読む」を精読し、キリスト者として教会と世の中における奉仕の在り方を聖書から学ぶ
- ルーテル教会が設立した社会福祉施設の働きから奉仕ということを考えるとともに、ルーテル教会の諸施設について知る機会を持つ

安崎嗣穂 (西宮教会)

西教区女性会の皆様、はじめまして。安崎嗣穂と申します。関西学院大学の大学院、神学部で学んでいます。将来は日本ルーテル神学校に進学、牧師になるつもりでいます。よろしくお願いします。今回は8月14～16日に行われたバイブルキャンプの感想を書かせてもらいます。

今回のキャンプで最も印象に残っていることは、CS用のメッセージを作ったことです。実は、母教会では長らく僕が最年少だったこともあり、僕はCSの奉仕をしたことがありませんでした。ですので、与えられた聖書箇所を、子供たちに伝える、という課題は僕にとって有意義なものでした。

どうすれば子供に伝わるのか、この箇所から子供に伝えるべきこと、伝えたいことは何なのか。それを知るために、祈りつつ、聖書に向き合いました。キャンプの日々は、人生で最も聖書と向き合う日々でした。貴重な日々を支えてくださった皆様、特にキャンプの責任を負ってくださった竹田先生、共に過ごしたキャンパーの仲間たち、そしてご支援いただきました皆様に心から感謝します。

ひらきなおる
開木直氏による

「たいして役に立たない
宗教改革 500 年企画」



「マルティンとケーテ」(最終回)

いわばルーテル教会最初の牧師家庭を築いたマルティンとケーテ（カタリーナ）夫妻、三人の男の子（ハンス、マルティン、パウル）と三人の女の子（エリーザベト、マグダレーナ、マルガレーテ）を授かります。エリーザベトは一歳で、マグダレーナは十四歳で亡くなるという悲しみがありましたが、多くの下宿生のお世話と共に、早朝から深夜まで働き詰めだったケーテ、マルティンは少々愚痴をこぼしても、愛し感謝し合った夫婦だったようです。

マルティン最晩年、病気がちの中でもあちこちに出張する夫に、妻はソーセージやワインを送ってやり、それを鯨飲馬食したと喜びの返事を夫は伝えます。人々はケーテを、「ヴィッテンベルクの暁の明星」と呼んだそうです。前回紹介した卓上語録に、マルティンの次のような言葉が残されています。「私は彼女をフランス王国やヴェネチアの支配権よりももっと大事だと思っている。第一に彼女は神から賜ったものだ。第二によく他の夫婦の間に争いを聞くが、私の妻はそれ程でもない（微妙な、いや正直な褒め言葉！）。第三に彼女は信仰深く真面目だ。だから二人の間に生じるどんな事にも打ち勝てると私は思っている」。

夫が63歳で亡くなった時、ケーテは46歳、21年間の結婚生活でした。残念ながら彼女の最期は詳しくは知られていません。1552年、夫の6年後トルガウで亡くなりました。

連載の最終回、時は今に移り、ヴィッテンベルクでは毎年「ルター結婚祭」が開催されます。6月13日の結婚記念日近くに、1994年以来、三日間に渡って行われるお祭りです。（今年は9～11日、来年は8～10日の予定）。当時を再現した祝祭パレードが、その年に選ばれた「マルティンとケーテ」を中心に行われ、各種展示や演奏会等が行われます。面白いのは、その年のルター夫妻は、いわば文化大使としてポスターその他の被写体はもちろん、一年間様々なイベントで活躍するようです。

来年は会いに行きましようか。（完）

～役に立たない宗改 500 記念・補遺～

宗教改革500年・ドイツで見つけたポスター



バーデン福音(州)教会が作った「宗教改革500年」のポスター、ケール(Kehl)という小さな町の教会で見つけました。マルティンの吹出は、「キリストの霊があるところ、そこに自由がある」と極めて真面目なセリフが…ところが、身につけたTシャツの文言は、そのややにやけた表情から、「俺は自由だぜい！」みたいなニュアンスか？まあ、訳しようでは「我はそれ故自由なり」なのですが、吹出の下に、わざわざ「マルティン・ルター、宗教改革者、ヴィッテンベルク」のキャプションがあり、少しお茶目に人目を引く効果を狙ったものと思われます。が、しかし、かの地でも、このキャプション入れなきゃならないほど、我らのルター先生の知名度、認知度に陰りがあることの証左なのかもしれません。

（花みずき特派員：米島勉）

ACWA（アジア教会婦人会議）一日研修会報告

京都教会 沼崎素子



10月6日(金)、在日大韓基督教会京都教会にて、第31回関西支部一日研修会が開催されました。ACWC 関西支部は、救世軍・在日大韓基督教会・日本基督教団・日本バプテスト連盟と同盟・日本聖公会そして日本福音ルーテル教会から集められた18名の委員によって構成され、この毎年行われる研修会の運営を担っています。今年のテーマは、「キリストに結ばれて」～あなたがたはキリストにおいて満たされているのです～（コロサイの信徒への手紙2：10）。礼拝式文作りは、ACWC ミャンマーの担当でした。聖書研究は、在日大韓教会の金必順（キム・ピルスン）牧師をお迎えして、サムエル記下21：1～14における、リツパという女性の行いについて学びました。息子の命の尊厳を守るため、わが身の危険も顧みず愛情あふれる尊い行いをしたリツパの姿に深く感銘をうけるとともに、「私たちも行動する女性として招かれています。」と言われた先生のお言葉には胸が熱くなりました。午後の講演では、インドの「プリ・キンダーガルテンスクール里親の会」世話人会代表の松本素代美さん（バプテスト連盟多良見キリスト教会会員）をお招きしました。貧しい子供たちに寄り添う支援活動の中で厳しい現実と直面しながらも、神様に信頼し、全てを委ねて歩み続けておられる大変貴重なお話を伺うことができました。恵み多き一日に心より感謝いたします。参加者数：276名 礼拝献金：25万3250円 署名キャンペーン：2074名 献金：28万7100円

〈西教区女性会第19回総会のご案内〉

日 時： 2018年 2月12日（月・祝）10：30～
 会 場： 広島教会
 案内申込書： 12月上旬発送予定
 ※正議員は1教会女性会ごとに1名です。

♥ 会長より一言 ♥

「連盟・女性会の存在意義」について、9月の各地区連絡会では以下のように確認しました。

- ★自分に与えられた信仰を自分だけのもの、としないで、共有や継承をしながらその輪を広げていける「場」である
- ★一人では支援（祈り、奉獻（身体、エネルギー、時間、献金・・・））できないことも、複数ならできる「場」である

連盟・教区の女性会は、それ自体は、特に西教区の場合は目立つような大きな活動はありません。しかし、目や心を自分の教会だけに向けるのではなくて、姉妹教会に思いを馳せ、祈り合うという、外への心を持ち続けることを覚えさせてくれるように思います。また、教区や全国のつながりを縁の下で支える信徒運動体とも言えるかもしれません。よくわかりませんが、神さまのみむねにしたがって歩んでいけますように・・・。